

「情報公開文書」

研究課題名：還元難消化性デキストリン配合水が胃 X 線検診後の腹部症状に与える影響についての検討

研究責任者：千葉隆士

研究分担者：加藤勝章・浅沼清孝・佐藤真由美・面川奈津子・盛田美樹

研究機関：宮城県対がん協会がん検診センター

1. 研究の対象

平成 25 年 4 月から令和 6 年 3 月までに当協会へ胃バリウム検診後の電話相談を行った方。

2. 研究目的・方法

胃 X 線検診の偶発症の一つに便秘がある。便秘が長引くことで腸閉塞や穿孔のリスクが高まるため、検査後速やかに排便されることが望ましい。宮城県対がん協会では便秘対策として平成 25 年度からバリウムに液状下剤を混入しているが、その後も便秘に関する電話相談が年間 100 件近くありさらなる対策が必要である。

本研究はデキストリン配合水の全市町村への配布が便秘相談件数に与える影響を評価することを目的とする。

還元難消化性デキストリン配合水の配布をしていなかった平成 25 年度～令和 4 年度と還元難消化性デキストリン配合水配布をはじめた令和 5 年度以降の胃 X 線検診受診者の腹部症状に関する電話相談の件数や割合を比較検討する。

研究期間は倫理審査結果受理から 2025 年 3 月までとする。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：胃バリウム検診後の電話相談者の検診受診日・性別・年齢・症状（腹痛、便秘、吐き気など）等。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて受診者さまもしくは受診者さまの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも受診者さまに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

宮城県対がん協会がん検診センター([TEL:022-263-1525](tel:022-263-1525)) 研究責任者(千葉隆士)